

## 西之島の火山活動解説資料（平成 26 年 8 月）

気象庁地震火山部  
火山監視・情報センター

海上保安庁等の観測によると、噴火及び溶岩の流出が継続し、新たに形成された陸地の拡大が確認されています。

西之島では、今後も噴火が続くおそれがありますので、西之島の中心から概ね 6 km 以内の範囲では噴火に警戒してください。また、周辺海域では浮遊物に注意してください。

6 月 11 日に火口周辺警報（入山危険）及び火山現象に関する海上警報を切り替えました。その後、警報事項に変更はありません。

## 活動概況

< 8 月 26 日の状況（図 3～5）>

26 日に海上保安庁が実施した上空からの観測によると、北側火口（図 3）の東側に白色の噴煙を連続的に噴出する新たな火口（東側火口）が確認されました（図 3）。北側火口内の溶岩の湧き出し（溶岩マウンド<sup>1)</sup>）からは、短い間隔で溶岩片を噴出する噴火を繰り返していました。溶岩マウンドはほぼ楕円形で、大きさは長径約 90m、短径約 60m でした（図 4）。北側火口と南側火口の間火口では青白色の噴煙を噴出していました（図 4）。溶岩流は東側へ流下し、海面に接した場所では白煙を上げていました。

新たな陸地の大きさは、東西方向に約 1,550m、南北方向に約 1,250m、面積は約 1.21 km<sup>2</sup>（前回 7 月 23 日：1.08 km<sup>2</sup>）でした（図 5）。

変色水域は、西之島の北東側と南西側の 2ヶ所に分布していました。北東側の変色水域は、北東岸から南東に向け、帯状で幅約 700m、長さ約 2,000m 以上で茶褐色から黄緑色に変化しながら分布していました（図 3 の）。また、南西側の変色水域は、南西岸から南岸に沿って、幅約 100～200m で褐色から黄緑色の変色水域が分布し、南側海岸線中間付近の沖合に南西方向に伸びる帯状で長さ約 700～800m、幅約 100～200m の薄い黄緑色の変色水域が分布していました（図 3 の）。

上記の他に海上自衛隊等の観測により、噴火及び溶岩流の流出が継続し、新たに形成された陸地の拡大が確認されています。

1) 火口内に湧き出した溶岩が丘状に高まりを作ったもの。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ（<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.htm>）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 26 年 9 月分）は平成 26 年 10 月 8 日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、海上保安庁及び海上自衛隊のデータを利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 25000（行政界・海岸線）』を使用しています（承認番号：平 23 情使、第 467 号）。



図1 伊豆・小笠原諸島の活火山分布及び西之島の位置図

西之島は、東京の南方約 1000km、父島から西に約 130km に位置します。

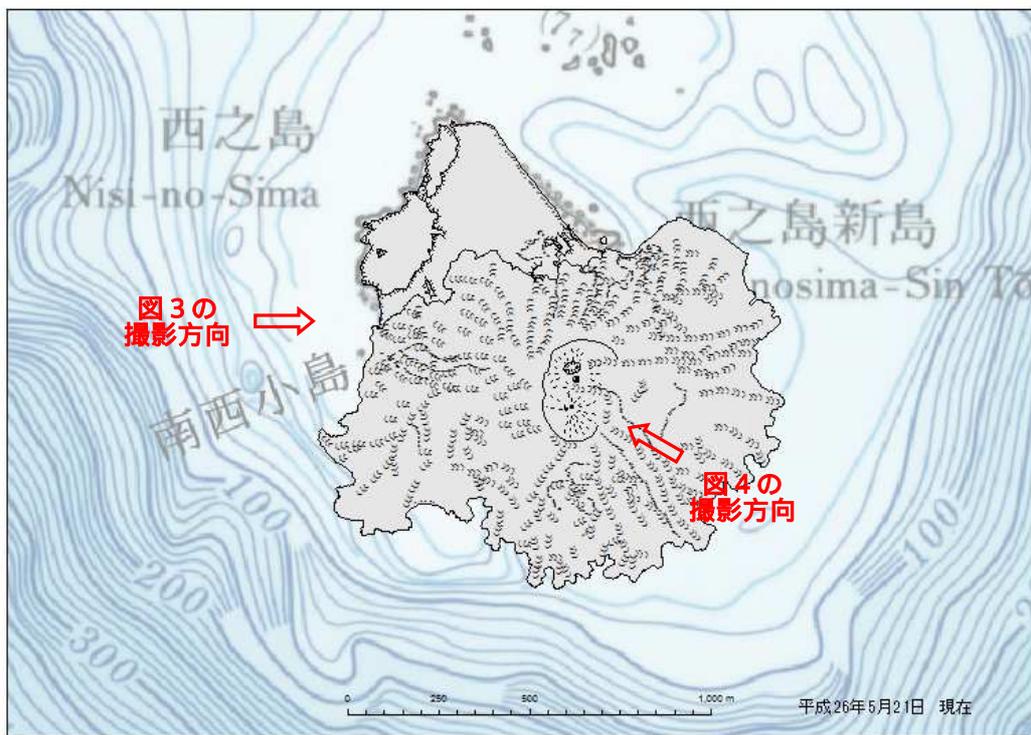


図2 西之島 主な撮影方向  
西之島地形図（海上保安庁作成）に撮影方向を追記。



図3 西之島 噴火及び変色水域の状況

(8月26日10時35分 西方向から撮影・海上保安庁提供)

- ・北側火口( )の東側に新たに東側火口( )が認められました。
- ・変色水域が北東岸から南東に向けて( )と南西側から南岸に沿って流れ、その後、南側海岸線の南東方向の沖合( )に分布していました。



図4 西之島 北側火口周辺の状況

(8月26日11時40分 南東方向から撮影・海上保安庁提供)

- ・北側火口内に溶岩マウンドの形成( )と、北側火口と南側火口間の火口から青白噴煙を噴出( )しているのを確認しました。

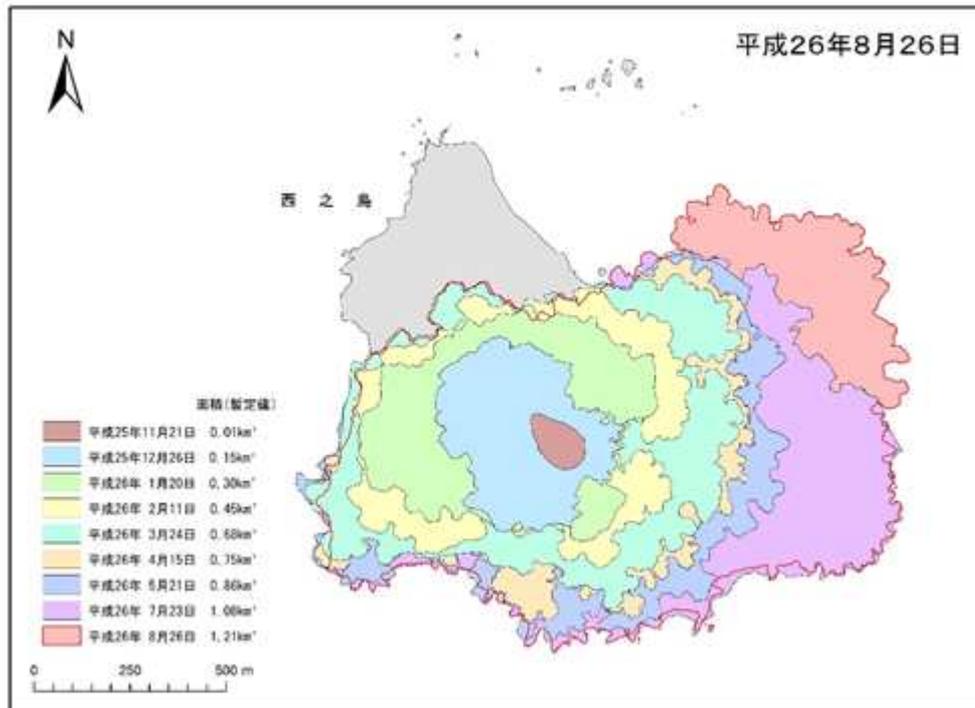


図5 西之島 面積変化図(海上保安庁作成)